



大阪の 社会福祉

2023年1月

812



社会福祉
法人

大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



令和5年
年頭あいさつ



社会福祉法人
大阪市社会福祉協議会
会長 永岡 正己

新年あけましておめでとうございます。

皆さま方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申しあげます。

さて、地域社会におきましては、急速に進展する少子高齢化の影響を受け、住民同士のつながりが希薄化する中、社会的孤立や生きづらさを抱える人が増えるなど、地域における生活課題は複雑化・多様化・深刻化しています。こうした課題は既存の社会福祉制度だけでは対応できず、解決に向け、雇用・教育・介護、生活保障等が一体となった計画的な仕組みの発展が求められるとともに、地域社会全体で地域の人々に寄り添い、その生活を支える取組みの広がりが必要です。

新型コロナウイルス感染症は社会経済や私たちの暮らしに今も影響を及ぼし、不安な国際情勢のもとで物価も高騰しています。生活福祉資金の特例貸付の申請は昨年9月末で終了しましたが、生活困窮や諸困難を負

う人々への継続的な支援はもとより、生活支援をさらに発展させ、地域福祉活動を通して築いてきた絆が弱まることのないよう、新たな状況に対応した取組みも必要になっています。また災害に備えた取組みも大切です。こうした状況をふまえ、本会

では、第2期大阪市地域福祉活動推進計画（令和3～5年度）に基づき、住民が主体となつて地域の生活課題・福祉課題を把握し、つながりを絶やすことなく、ともに暮らしを支え合う活動を進めています。多様な主体の参画と協働を積極的に進め、つながり・支え合うことのできる福祉コミュニティづくりに一層取り組んでまいります。

本年も「一人ひとりの人権が尊重されるやさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」の実現に向け、各区社協と連携を図り、役職員一同、広く市民の皆さまに信頼される「社協」をめざしてまいる所存でございます。

年頭にあたり、各区・各地域社会福祉協議会、民生委員・児童委員、主任児童委員、社会福祉施設、企業、NPOならびにボランティアの方々をはじめ、市民の皆さまに一層のご支援・ご協力をお願いいたしますとともに、皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申しあげまして、新年のごあいさついたします。

HB

昨年末、府立の病院がサイバー攻撃に遭った。身代金要求

には効果的だろうが、病院を狙うのは許せない▼先日、妻の付き添いで別の病院に行った。最初の手続きがわからなくて入り口でうろちうろちしていると、テキパキと対応してくれるボランティアがいてありがたかった。私たちは診察券を出しただけ▼あまりにもテキパキしていたので、次に来た時も、きつとどうすればいいのかわからないだろうと思うとともに、私たちはよっぽど年寄りに見えたのだろうと、少し悲しくなった▼病院は混雑していた。このような状態の病院で、診察券を入り口の機械に入れたら、その後は順番に案内してくれるシステムが崩れたら、医師の診察はもとより、大変なことになると想像できた▼診察を終えて薬局へ行った。指示された薬をもらった後、薬剤師がこれは便利ですよと言ってたでくれたのが、パンツ型の紙おむつ。ここでも私たちは年寄りだと思われてしまった。そう思われても仕方のない雰囲気を感じ出しているのだろう▼今年こそ物価高にもコロナにも負けないで、胸を張って歩かなければ。

(石)



都島区社協では、日頃から「身近なままの目」を大切に、さまざまなかたちで、地域住民や団体、企業と連携しています。コロナ禍以降、人々のつながりが希薄になり、孤立する方が増えていくなかで、区社協の横断事業の一つである孤立発見プロジェクトのメンバーは、支援者の「気づきの輪」をもっと広げていくことで、暮らしやすい地域に近づくと考えました。

応援して欲しいことをまとめたものを手に、8班に分かれて3部構成で進められました。第一部では「熱い取組みのご紹介」と題して、区内で活動している住民や団体、企業の6グループが日ごろの活動や区社協と関

わったきっかけを報告しました。

日頃から自分ごととして取り組まれている活動はどれも興味深く、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。また、コーディネーターの関西国際大学の岩本裕子先生は、「地域の情報を区社協ですべて把握できるわけはなく、近くに住民だからこそ小さな変化にも気づくことができる。それを相談しに行ける先、すなわち区社協とのつながりがあるからこそ、安心して活動が展開でき、さらにいろいろな人の幸せにもつながっていくのではないかとまとめました。



▲8班に分かれて、企業・団体・施設・地域住民が熱い取組みを語りあいました

多様な人とながら ことで問題解決への 道筋も

第2部は、参加者1人ずつがマイクを持ち区社協の職員も加わり、自己紹介を兼ねた15秒のPRタイム。時間内で伝えきれなかったことは、その後のグループごとの交流会に持ち越され、自由に書いたフリップを掲げて非常に活発な意見交換がおこなわれました。

近所の心配な人に対しての見守り活動の提案や、献血活動が停滞しているという活動者に対して、他の参加者が駐車場の提供を申し出る場面もあり、課題共有だけでなくさまざまな具体的な強みを活かした協働事業の案も生まれていました。

岩本先生からは「地域のために関心したい、良くしたいと

思っている多様な立場の人が、今日一堂に会しました。つながりは弱くても、いろいろな人や組織を知ること、とても価値があります。すぐに解決しなくても頭の片隅に『こんな人がいたな』と残していれば十分です。つながりたければ区社協が結んでくれます」とコメントがありました。

第3部は、自由に名刺交換。交流会の熱気をそのままに参加者同士が互いに声をかけあい、長年の川原佳代さんは、「つながりたいという思いをもって参加された皆さんだったので、熱い気持ちのこもった交流会になったと思います。支援者が個から線、面へとつながることで支援を必要とされる方が少しでも早く発見され、支援者が各々の強みを活かして助け合うことで地域がさらに良い方向に変わっていくことを願っています」と締めくくりました。



▲盛り上がった名刺交換タイム



交流会は、49団体・70人が参加し、事前に提出されていた自らの組織の強みや

た。日々に開催することにした。いろいろな交流会」を12月2日に開催することにした。た。

■第一部：発表内容（一部抜粋）

テーマ（団体名）	内 容
「“まち”の郵便局の使命」（都島中通三郵便局）	「キャッシュカードが無くなった」と何度も来局する高齢者への対応をきっかけに、顔が見える街の郵便局だからこそできる、見守りを実施。
「何か、この人、気になるなあ〜」（ファミリーマート都島本通三丁目店）	来店客だった区社協職員への相談をきっかけに、地域の情報や困りごとを区社協へつなげていけるようSNSを活用し簡単に相談ができる仕組みをスタート。
「みんなの思いをカタチに〜桜宮地域でのスタンプラリーの取り組み〜」	コロナ禍で「外出する機会がない」「歩き始めの一步目がうまく踏み出せない」との高齢者の声から、目的を持って歩くことができる「スタンプラリー」を考案。子ども達が描いた絵に高齢者が色をつける「つながるぬりえ」も加わり、動と静の人気企画として継続中。



▲6グループがこれまでの活動を報告

中央区

ホテルのおしごとを体験しよう 親子それぞれでリフレッシュの時間を



**障がいのある
こどもと保護者を
ご招待**

中央区にあるホテル「W大阪」は、11月23日に障がいのあるこどもと保護者をホテルに招待し、ホテルの仕事体験ができるイベントを開催しました。この取組みは、同ホテルが、病気や障がいがあるこどもの保護者にゆとりリフレッシュできる機会を提供できればと、企画さ

**親子で分かれての
プログラム体験**

れたものです。今回は小学校中
高学年を中心とした5家族12
人が参加しました。

はじめに、ホテルスタッフか
らのあいさつの後、こどもと保
護者に分かれて別々のプログラ
ムを体験。こどもたちは、まず
ナプキン折りやスプーン・
フォーク磨きに挑戦。「きれい
にできた!」「もつとやりた
い!」との声も飛び交
い、ホテルのスタッ
フがこどもたちに付き添
いながらそれぞれの
ペースに合わせて進め
ていきました。

たり、ソースでデコレーショ
ンするなど、ケーキの仕上げ体
験を楽しみました。

一方で、保護者の方々はそ
の間にホテル内を見学。最上階
のスイートルームでは中央区が
一望できる景色を背景に写真
を撮り、保護者同士で交流し
ながら時間を過ごしました。

そして、親子が合流し、こ
どもたちが仕上げたナプキン
やフォークを使いながら、飾り
つけされたショートケーキで

ティータイムを楽しみまし
た。

参加者からは、「ホテル
スタッフの皆さまも大変優
しく、個別対応もしていた
だき、ケーキやパンを作る
楽しそうな息子を見られて
良かった」「ホテルスタッ
フの皆さまのおかげで楽し
い思い出をつくれました」
との感想がありました。

**ホテルスタッフ
ならではの
おもてなし**

「時にはこどもと離れ
て、親御さんにゆとりし
た時間を過ごしてもらいた
い」と思い、今回の企画
を考えました」とは、
この取組みの企画者で
もあるW大阪総料理
長の村山茂さん。もと
も地域とつながって
いきたいとの思いで、
区内で開催している
フードパントリーやこ
ども食堂に社員がボラ
ンティアとして参加し
たり、清掃活動をした
りと地域に根差した活
動を精力的に取り組ん
できました。今回のよ
うにホテルへ障がいの
あるこどもと保護者を
招待するイベントは初



▲スプーンは自分が映るまでピカピカに

その後は、ホテルが
用意したコック帽を被
り、犬のかたちをした
パンにクッキーを張り
付けて顔を仕上げる作
業です。目やほつた
を模したクッキーは、
つける位置で表情が変
わり、パンづくりに真
剣な様子のこどもた
ち。最後には、ショ
ートケーキに果物をの



▲ハートのおめんどこにつけようか

中央区社協・地域支援担当の
川田仁美さんは、「ホテルの皆
さんが考えた今回の企画の実施
にあたり、事前に参加者の特性
を聞き取り、スタッフの方々と
何度も打合せを重ねました。W
大阪はこども支援をはじめとし
て、さまざまな社会貢献活動を
されていますが、ホテルの強み
を活かした今回のような取組み
が他にも拡がればと思います」と
話しました。



▲飾りつけたケーキをいただきます

令和 5 年 元旦

卯



社会福祉法人
大阪市社会福祉協議会

会 長 永岡 正己

副会長 清水 弘 / 武智 虎義 / 多田 龍弘 / 前田 葉子

社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会	会長 小玉 始
社会福祉法人 大阪市福島区社会福祉協議会	会長 矢山 英夫
社会福祉法人 大阪市中央区社会福祉協議会	会長 浦野 皖次
社会福祉法人 大阪市港区社会福祉協議会	会長 武智 虎義
社会福祉法人 大阪市天王寺区社会福祉協議会	会長 一本松三雪
社会福祉法人 大阪市西淀川区社会福祉協議会	会長 大垣 純一
社会福祉法人 大阪市東淀川区社会福祉協議会	会長 吉田 正則
社会福祉法人 大阪市生野区社会福祉協議会	会長 多田 龍弘
社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会	会長 高木 正博
社会福祉法人 大阪市阿倍野区社会福祉協議会	会長 永岡 正己
社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会	会長 山下 保一
社会福祉法人 大阪市平野区社会福祉協議会	会長 林 幸男

社会福祉法人 大阪市都島区社会福祉協議会	会長 前田 起平
社会福祉法人 大阪市此花区社会福祉協議会	会長 岩井 政人
社会福祉法人 大阪市西区社会福祉協議会	会長 笹倉 和忠
社会福祉法人 大阪市大正区社会福祉協議会	会長 川上 満
社会福祉法人 大阪市浪速区社会福祉協議会	会長 北口 武司
社会福祉法人 大阪市淀川区社会福祉協議会	会長 三田 和夫
社会福祉法人 大阪市東成区社会福祉協議会	会長 清水 弘
社会福祉法人 大阪市旭区社会福祉協議会	会長 宮本 正路
社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会	会長 中田 俊二
社会福祉法人 大阪市住之江区社会福祉協議会	会長 中野紀久雄
社会福祉法人 大阪市東住吉区社会福祉協議会	会長 川本 公夫
社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会	会長 越村 市二

支えあう 住みよい社会 地域から
大阪市民生委員児童委員協議会

会 長 小 嶋 憲 子
副会長 桑 野 太一郎
副会長 浦 野 英 男
副会長 山 本 文 雄

〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内
電話 6765-5609 FAX 6765-5603

赤い羽根共同募金

社会福祉法人
大阪府共同募金会

会 長 多田 龍弘
〒542-0065
大阪市中区中寺1-1-54
大阪社会福祉指導センター 2 階
電話 6762-8717 FAX 6762-8718
<http://www.akaihane-osaka.or.jp>

大阪市社会事業施設協議会 会 長 川 端 均 (大阪市生活保護施設連盟) 副会長 中 西 裕 (大阪市児童福祉施設連盟) 副会長 近 藤 遼 (大阪市保育連合会) 副会長 新 田 正 尚 (大阪市老人福祉施設連盟) 副会長 松 野 五 郎 (大阪市地域福祉施設協議会) 副会長 山 内 泰 典 (大阪市障害児・者施設連絡協議会) 【事務局】 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5606 FAX 6765-5607		社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 会 長 井手之上 優 副 会 長 大 西 豊 美 副 会 長 谷 口 和 宏 常務理事 田 中 進 〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54 電話 6762-9471 FAX 6764-5374 http://www.osakafusyakyo.or.jp
一般財団法人 大阪市身体障害者団体協議会 会 長 手 嶋 勇 一 川 越 利 信 廣 田 しづえ 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5636 FAX 6765-7407 http://shishinkyo.o.o.jp	公益社団法人 大阪市ひとり親家庭福祉連合会 会 長 北 玲 子 〒531-0071 大阪市北区中津 1-4-10 大阪市立愛光会館内 電話 6371-7146 FAX 6371-6722 https://www.hitoren-osaka.org	一般社団法人 大阪市児童福祉施設連盟 会 長 中 西 裕 児童養護施設 母子生活支援施設 児童自立支援施設 乳児院 児童心理治療施設 福祉型障害児入所施設 児童発達支援センター 【事務局】 社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 〒547-0045 平野区平野上町1-7-3 電話 6791-5410 FAX 6791-7774
一般社団法人 大阪市私立保育連盟 会 長 近 藤 遼 会員一同 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6761-1171 http://o-shihoren.or.jp/	一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 代表理事 仲 谷 善 弘 〒543-0021 天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-3611 FAX 6765-3612 https://sirouren.jp	大阪市生活保護施設連盟 会 長 川 端 均 会員一同 【事務局】 救護施設 平和寮 内 〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3-4-27 電話 6628-6151 FAX 6628-0441
特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会 会 長 松 野 五 郎 会員一同 〒557-0004 西成区萩之茶屋2-9-2 わかさ保育園内 電話 6633-2965 FAX 6633-2970	大阪市障害児・者施設連絡協議会 会 長 山 内 泰 典 【事務局】 あすわ〜く 内 〒533-0014 大阪市東淀川区豊新 1-3-3 電話 080-4760-8215 FAX 06-6815-0255 http://www.ossk.org	みおつくしクラブ大阪 (愛称) 一般社団法人 大阪市老人クラブ連合会 理事長 野 口 一 郎 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター 3 階 電話 4304-8555 FAX 4304-8557
障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会 理事長 長谷川 美智代 役員・会員一同 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5621 FAX 6765-5623	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター 理事長 鈴木 恒彦 南大阪小児リハビリテーション病院 (保険医療機関) わかば (医療型障害児入所施設・短期入所事業) ふたば (児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) いぶき (特定相談支援事業・障害児相談支援事業) フェニックス (医療型障害児入所施設・療養介護事業・短期入所事業) なでしこ (生活介護事業・児童発達支援事業) 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 5-11-21 電話 6699-8731 FAX 6699-8134 みらい (放課後等デイサービス) 電話 7501-0282 FAX 7504-0212 うなた (生活介護事業) 電話 7501-0319 FAX 7501-0330 きらり (共同生活援助事業) 電話 7501-0328 FAX 7501-0330 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 5-12-5 訪問看護ステーション めぐみ (指定訪問看護事業) 電話 6699-8855 FAX 6699-8856 ヘルパーステーション めぐみ (指定訪問介護事業) 電話 7506-9223 FAX 6699-8856 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 5-9-16 大阪発達総合療育センター あざしお診療所 (保険医療機関) あざしお園 (児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) ゆうなぎ園 (児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) 〒552-0004 大阪市港区夕風 2-5-3 電話 6574-2521 FAX 6574-2524	
社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会 理事長 石 田 易 司 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12番10号 電話 06-6767-9981 【運営事業所一覧】 大阪市長居障がい者スポーツセンター 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター 大阪市更生療育センター ワークセンター中津 ワークセンター中授 ワークセンター千里 大阪市立此花作業指導所 ワークセンター粉浜 中津サテライトオフィス 大阪市立早川福祉会館 サテライト・オフィス平野 大阪市障がい者相談支援研修センター 大阪市職業指導センター 大阪市職業リハビリテーションセンター 大阪市障がい者就業・生活支援センター 大阪市発達障がい者支援センター[エルムおおさか]		

社会福祉法人 一隅苑 理事長 和田 偉夫 我孫子地域在宅サービスステーション ・デイサービスセンター ・ホームヘルプセンター ・ケアプランセンター ・総合相談窓口(ランチ) 〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東1-4-37 電話 4700-1000 FAX 4700-1009	社会福祉法人 今川学園 理事長 魚住 誠一 保育所・隣保館・子どもの家・ キンダーハイム・大和川園・今林の里・ ふれあいホーム・ハーモニー・ ワークセンターいまがわ 〒546-0003 大阪市東住吉区今川3-5-8 電話 6713-6106	社会福祉法人 海の子学園 理事長 間口 敦生 児童養護施設 入舟寮 児童養護施設 池島寮 病後児保育室 げんきっこホーム 〒552-0015 港区池島3-7-18 電話 6571-1000 FAX 6573-9102
 社会福祉法人 大阪自彊館 理事長 川端 均 〒557-0014 大阪市西成区天下茶屋1-3-17 電話 6659-8181 FAX 6652-2218 http://www.ojk.or.jp	社会福祉法人 大阪重症心身障害児者を支える会 理事長 三田 康平 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町2-23-11 電話 6622-3759 FAX 6622-3769 E-mail center@sasaeru.or.jp	社会福祉法人 生きるを支える 大阪福祉事業財団 理事長 茨木 範宏 常務理事 山本 政幸 常務理事 勝原 祐子 事務局長 桑原 一章  大阪福祉事業財団 〒536-0001 大阪市城東区古市1-7-8 電話 6931-0098 FAX 6933-1699 mail:since1948@zaidanosaka.or.jp https://www.zaidanosaka.or.jp
社会福祉法人 柿の木福祉の園 理事長 宮川 ヒサ 長居保育園 長居保育園乳児センター 長居子どもの家 長居西地域在宅サービスステーション ながいの里 居宅介護支援事業所 ながいの里 〒558-0004 大阪市住吉区長居東4-11-16 電話 6691-3669 FAX 6691-8292 http://www.kakinoki.or.jp	社会福祉法人 久栄会 理事長 岩崎 久直 〒544-0013 大阪市生野区巽中3-14-3 電話 6756-5200 FAX 6756-6688 http://www.minori-en.com/	社会福祉法人 きれ福社会 理事長 大久保 孝 障がい福祉サービス事業 就労継続支援B型事業所 ユーアンドアイ 居宅介護・重度訪問介護 サポートわか 〒547-0025 平野区瓜破西 1-8-45 電話 6799-5112 FAX 6799-5113
社会福祉法人 高津学園 理事長 田尻 達朗 児童養護施設 高津学園 児童養護施設 報恩寮 障害児入所施設 法然寮 障害者支援施設 知恩寮(以上、天王寺区) 児童養護施設 信太学園(和泉市) 〒543-0017 天王寺区城南寺町1番10号 電話 6761-1663 FAX 6768-1653	社会福祉法人 治栄会 理事長 大森 秀之 〒534-0027 大阪市都島区中野町5-10-70 電話 4253-8055 FAX 4253-8066 https://www.jieikai.or.jp/	社会福祉法人 四恩学園 理事長 中西 裕 ●乳児院・児童養護施設 ●幼児・乳児・夜間保育園 ●子どもの家(学童)・子育て支援センター ●地域密着型特別養護老人ホーム デイサービス・認知症デイサービス・ホームヘルプセンター 住吉区東地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・ 在宅介護支援センター 〒558-0011 大阪市住吉区荻田4-3-9 電話 6607-2220 FAX 6696-5347 http://shiongakuen.or.jp
 社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 理事長 南谷 恵敬 常務理事 塚原 昭人 常務理事 廣瀬 善重 〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1-11-18 電話 6771-7971 FAX 6771-8961	社会福祉法人 晋栄福祉会 理事長 濱田 和則 〈鶴見区〉茨田大宮ちどり 施設長 上東 恵子 〈都島区〉東野田ちどり保育園 園長 江川 永里子 〈城東区〉城東ちどり保育園 園長 山本 信吾 〈東成区〉大阪市立東中本保育所 所長 高田 幸代 〈大正区〉大阪市立北恩加島保育所 所長 西森 保子 〈北区〉中之島ちどり保育園 園長 小林 操 〈中央区〉御堂筋本町ちどり保育園 園長 高平 友子 〈福島区〉新福島ちどり保育園 園長 松本 行弘	社会福祉法人 しんもり福祉会 理事長 松野 五郎 平和の子保育園 平和の子どもの家 らっこデイサービスセンター 大阪市立両国保育所 〒535-0022 大阪市旭区新森7-1-5 電話 06-6954-0524 FAX 06-6954-1961 http://www.shinmori-fukushikai.or.jp
社会福祉法人 水仙福祉会 理事長 松村 寛 〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-13-21 電話 6328-3786 FAX 6328-3788 E-mail honbu@suisen.or.jp http://www.suisen.or.jp/	 社会福祉法人 スワンなにわ 理事長 樋口 恵光 認知症対応型通所介護 生活支援事業所 居宅介護支援事業所 児童デイサービス 有料老人ホーム 就労継続支援B型事業所 訪問介護 〒556-0026 大阪市浪速区浪速西2-11-6 電話 6562-0456 http://care-net.biz/27/swan/	社会福祉法人 聖家族の家 理事長 上利 久芳 児童養護施設 聖家族の家 乳児院 聖母託児園 児童心理治療施設 児童院 〒546-0033 東住吉区南田辺4-5-2 電話 6699-7221 FAX 6699-7243 E-mail holyfamily@luck.ocn.ne.jp

社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 理事長 杉田 善久 大念仏乳児院、ボ・ドーム大念仏、 ボ・ドーム、子どもの家「童夢」、いちよう保育園、 いちようベビーセンター、ひらのドリーム園、 南生野いちよう保育園、 ドレミ広場、タイガー・ダイヤモンドルーム 〒547-0045 大阪市平野区平野上町1-7-3 電話 6791-5410	 社会福祉法人 尚 和 会 理事長 張 はる江 なのはなこども園 〒534-0023 大阪市都島区都島南通1-9-1 電話 6921-6818 FAX 6921-6819 http://nanohana-hoiku.or.jp	社会福祉法人 なみはや福祉会 理事長 竹本 榮 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6761-3010 http://www.namihaya.or.jp
社会福祉法人 日本ライトハウス 理事長 橋本 照夫 〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-37 電話 6961-5521 FAX 6968-2059 http://www.lighthouse.or.jp/	社会福祉法人 博愛社 理事長 長野 泰信 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72 電話 6301-0367 FAX 6301-5347 https://www.hakuaisha-welfare.net/	やさしさと思いやりのある介護  社会福祉法人 ビーナス福祉会 理事長 田村 文子 〒551-0003 大阪市大正区千島1-23-26 電話 6553-4800 FAX 6553-7771 http://www.venushome.jp/
 社会福祉法人 みおつくし福祉会 理事長 田丸 卓嗣 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5611 FAX 6765-5614 https://www.mioticsukushi.or.jp/	 社会福祉法人 みなと寮 理事長 大西 豊美 〒586-0052 河内長野市河合寺423番1 電話 0721-62-3700 FAX 0721-62-3711 http://www.minatoryo.or.jp/	社会福祉法人 都島友の会 理事長 渡久地 歌子 〒534-0021 大阪市都島区都島本通3-4-3 電話 6921-0321 FAX 6924-2055 http://www.miyakojima.or.jp
 あふれる笑顔 社会福祉法人 優心会 理事長 垣谷 隆太 ・介護老人福祉施設 ・通所介護 ・短期入所生活介護 ・居宅介護支援事業 〒547-0014 大阪市平野区長吉川辺3丁目2番3号 電話 06-6700-8000 FAX 06-6700-8400 http://yuushinkai.or.jp	公益社団法人 大阪社会福祉士会 会長 前川 阿紀子 副会長 矢島 繁一 副会長 中本 勝也 副会長 原田 徹 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-4-15 大阪府社会福祉会館内 電話 4304-2772 FAX 4304-2773 http://www.oacsw.or.jp	まかせてください その仕事！ 公益社団法人 大阪市シルバー人材センター 本部 城東区関目3-1-14 電話 6931-0221 南部支部 天王寺区東高津町12-10 電話 6765-6116 西部支部 西区立売堀4-10-18 電話 6543-7011 北部支部 北区池田町1-50 電話 6882-3830 訪問介護事業所 城東区関目3-1-14 電話 6180-1010 (本部事務所併設) http://www.osakasc.or.jp
 学校法人 田島学園 (奈良東病院グループ) 近畿社会福祉専門学校 厚生労働大臣指定 (介護福祉士養成校) 理事長 鉄村 俊夫 学校長 榎 豪司 〒534-0025 大阪市都島区片町1-5-13 大手前センチュリービル3階 電話 6136-1117 FAX 6136-1115 http://www.kinki-swc.ac.jp	印刷 × Web + α TOTAL COMMUNICATION 関西共同 株式会社 関西共同印刷所 大阪本社 〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5 TEL 06-6453-3335(代) FAX 06-6452-4980 E-mail eigyo2@kansai-kyodo.co.jp http://www.kansai-kyodo.jp	人に寄り添う福祉を学ぶ  関西福祉科学大学 社会福祉学部 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1 ☎072-978-0088
福祉と教育を発信する 一般社団法人 檸檬新報舎 代表理事・編集長 平田 篤州 理事・東京支部長 末永 良一 理事・編集委員 水流添 綾 理事・編集委員 横須賀 文 〒541-0046 大阪市中央区平野町2-2-9 ビル皿井701 TEL 090-7765-1812 れもんしんぼう 検索 出版 法人史		本年もよろしく お願いいたします

施設協

大阪府社会事業施設協議会「地域における公益的な取組に関する実態調査」 コロナ禍での施設の取組の現状・課題・これからに向けて

大阪市内には1000を超える社会福祉施設があり、6つの種別団体から成る「大阪府社会事業施設協議会」（以下、施設協／事務局：市社協）を組織しています。

施設協では、地域における公益的な取組の実態を把握するため、令和4年1～5月に全加盟施設を対象とした調査を実施。前回調査（令和元年8～11月）以降のコロナ禍の状況もふまえながら、今後の推進に向けたポイントを整理しました。

施設の強みを、地域のつながり・課題解決に

市内の社会福祉施設では、従来から制度の枠組みに限らず、さまざまな独自性のある取組を展開してきた歴史があります。近年、公益的な取組が社会福祉法人の責務として社会福祉法に明記され、地域共生社会の実現に向けた施策が推進されるなか、改めて各施設が職員の専門性や施設の資源を活かし、住民の暮らしを支える活動や場づくり・つながりづくりなどを積極的に推進・発信していくことが重要となつています。

コロナ禍でも2/3以上の施設が取組を実施

今回の調査では、公益的な取組の実施状況（令和3年12月時点）について15の取組項目から選択式で回答（グラフ参照）。回

令和3年度 地域における公益的な取組に関する実態調査の概要

【実施主体】大阪府社会事業施設協議会（調査研究委員会において検討・実施）
事務局：市社協 地域福祉課

【実施期間】令和4年1月12日～5月31日
（回答内容の基準日は令和3年12月1日時点）

【対象】大阪府社会事業施設協議会に加盟する6団体（大阪府児童福祉施設連盟、大阪府保育連合会、大阪府老人福祉施設連盟、大阪府生活保護施設連盟、大阪府障害児・者施設連絡協議会）の全加盟施設
※法人単位でなく加盟施設単位で回答

【回答数】実回答数 582施設
加盟施設数換算 延べ606施設
（1施設で複数団体に加盟している場合があるため）

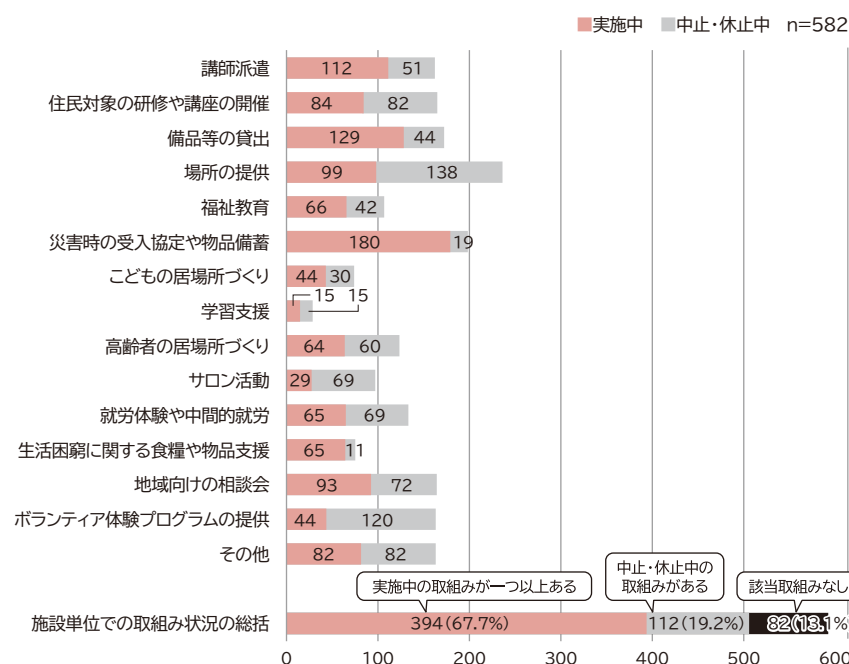
【回答率】54.5%

答した582施設のうち、実施中の取組が一つ以上ある施設は394（67.7%）。実施中はないが中止・休止中の取組がある施設は112（19.2%）。残る76施設（13.1%）は未実施であり、コロナ禍でも2/3以上の施設が取組を継続していることが明らかになりました。

一方、1施設あたりの選択項目数（中止・休止含む）は、前回調査と比べると総じて増加し、実施している施設では取組みがより多様になっていました。

項目別に「実施中」「中止・休止中」の選択割合（未実施を除く）を整理すると、災害に備えた取組のほか、物品を介した取組（食糧や物品支援、備品の貸出し）、職員が外に出向く取組（講師派遣、福祉教育など）は実施中が6～9割台と継続のしやすさがうかがえました。さまざまな場づくり（こどもや高齢者の居場所づくり、地域向け相談会、研修や講座の講師など）の取組は5割台。施設に人を迎え入れる取組（場の提供、ボランティア体験な

■各施設における公益的な取組の実施状況（令和3年12月時点）



ジレンマのなかで今できること

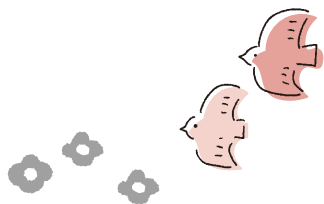
自由記述では「利用者の安全と職員確保を第一に、リスクのある活動を控えている」「家族との面会・外出が制限される中で、外部の人の受入れは難しい」とは2～4割台と、コロナ禍での実施の困難さが浮かびあがりました。



▲保育園児による近隣の清掃活動
（写真提供：阿さひ保育園）

今後取り組みたいこと（一部抜粋）

- 小学生登下校時の見守り活動
- 屋外での喫茶の実施
- 施設と学校をオンラインでつなぐ取組み
- 入所者の生活に潤いを与えるような音楽、茶道などの同好会（ボランティア受入・協力）
- 保育園に通っている保護者以外に向けての育児相談
- コロナ終息後には地域交流を深めたい
- 区社会福祉施設連絡会で地域向け相談会、居場所の提供を検討中



「い」など切実な声がありました。一方で、今後実施したい取組みにも意欲的な意見が多数寄せられ、地域との交流や貢献への思いがうかがえました。

また、取組みの再開に至ってはいなくても「法人内で活動再開や使用できる設備などを協議。地域の役員とも定期的に意見交換している」「施設で活動してくれていたボランティアに、定期的にお便りを出している」など、話し合いや思いのすり合わせをていねいに積み重ねている施設もありました。



調査から見えた3つのポイント

調査を企画・実施した施設協の調査研究委員会（各種別の施設長など10人で構成）では、結果をもとに議論を重ね、今後に向けたポイントを3つに整理しました。

(1) 何のために、どうすれば実施・再開できるか（目的・基準・手順）を検討・整理

コロナ禍で依然厳しい状況にあるなか、各施設が公益的な取組みを実施・再開するには、感染リスク、施設としての優先度を考慮し、取組みの意義を見つ

気をつけながら集まる方法

施設での活動の実施・再開に向けて

- 1 取組みの目的と現状確認（感染拡大、施設の状況など）
- 2 関連するガイドライン・基準等について情報収集（法人内／行政発／他の民間団体など）
- 3 事前の検討（協働先がある場合は話し合い）
 - 参加・利用にあたってのルールを決めること（体調・体温チェック、マスク着用など）
 - 密にならないような場所・時間・人数・プログラム設定と環境づくり
- 4 開催に向けた準備
 - 必要な物品（例：消毒液、予備用マスクなど）、掲示物（感染対策の注意事項など）の用意
 - 参加者へのお知らせ（体調・体温チェック、マスク着用、感染症対策の説明など）
 - 中止や形態変更時に備えたお知らせの準備
- 5 開催当日
 - レイアウト・プログラムの工夫
 - 消毒・衛生対策の実施
 - 換気と熱中症対策の実施
 - 出席者情報の確認 など
- 6 ふりかえって次につなげる

※「コロナの中でもつながる方法」の掲載内容及び表を参考に作成

め直し、実現可能な方法を考える必要があります。施設ごとに環境・条件は異なりますが、市社協作成「コロナの中でもつながる方法」なども参考にすることができま

用できます。ICTツールを使える環境を整え、使える人を育てることで、公益的な取組みに限らず施設としての選択肢が広がります。

(2) ICTツールの活用に向けた環境整備と人材育成

ICTツールは、対面でのふれあいに勝るものではありませんが、感染リスクなく気軽に参加できるなどのメリットも大きく、福祉教育、講座、交流、レクリエーションやそれらに向けた打合せにも活

(3) 社協・社会福祉施設連絡会等との連携・協働

(1)(2)を施設だけで取り組むには大きな力が必要です。一方で社協では、コロナ禍での地域福祉活動の再開支援やICTツールの活用に取り組んできた経過があり、サポート役・つなぎ役になれる可能性があります。また、コロナ禍により施設単独での新たな動きが難しいから

調査結果の詳細は報告書にまとめ、施設協・市社協HPで公開予定です。

施設協と市社協では、今回の調査結果をさまざまな場面で発信し、具体的な取組みの実現に向けてはたらきかけていきます。

調査結果の詳細は報告書にまとめ、施設協・市社協HPで公開予定です。

施設協と市社協では、今回の調査結果をさまざまな場面で発信し、具体的な取組みの実現に向けてはたらきかけていきます。



▲高齢者施設による小学生の登下校時の見守り（写真提供：特別養護老人ホームこうのとり）

施設協

令和4年度 福祉を学ぶ学生のための施設職員との懇談会
「社会福祉施設の若手職員に聞く
ふくしの仕事」を開催！

施設職員が福祉の 魅力を発信

大阪市社会事業施設協議会（経営委員会）、大阪市福祉人材養成連絡協議会、市社協は11月26日、三者共催事業として「福祉を学ぶ学生のための施設職員と懇談会」社会福祉施設の若手職員に聞く「ふくしの仕事」を開催しました。

この企画は、今年で4回目となり社会福祉施設で人材確保と定着が課題となっていることを背景として実施しています。会場参加とオンライン参加を併用した懇談会には、福祉を学ぶ、または福祉に関心のある大



▲今年は会場参加とオンライン参加併用で開催

学生をはじめとして関係者も含めた計46人が参加しました。

まず、児童養護施設、保育園、特別養護老人ホーム、救護施設、障がい者施設の若手職員12人が登壇し、それぞれの施設を紹介。そして「今の仕事に就いたきっかけ」や「仕事のやりがい」を語りました。やりがいについては、「利用者さんや子どもたちと関わることで元氣をもらっている」「悩むこともあるが分かりあえた瞬間に喜びを感じる」といった日々の関わりの中でエネルギーを得ながら、仕事の原動力にしているという言葉が多く聞かれました。その後の質疑応答では、会場だけではなくWEB上でも質問を募りながら、多くの質問に答える形で進行了しました。

終了後のアンケートでは、「自分の関心のある分野も、今まであまり考えた事がなかった分野も広く知ることができとても充実した時間でした。特に若手職員の方から聞けるといいうのが、他にはない魅力なのでまた機会があれば参加したいです」（大学2年生）。「それぞれの特徴ややりがい、時には本心が

当日の質疑応答から

Q 学生のうちにやっておけばよかったこと、就職活動の方法を知りたいです

A (障がい) 就職先の視野を広げるために、さまざまな施設の見学に行けばよかったと思っています。施設のイベント時などのボランティアに参加することもおすすです。

(救護施設) 福祉施設の就職フェアに参加して、そこで配付されたチラシを見ながら施設見学を申し込むなど、積極的に行動していました。

(保育) 市内の保育園の一覧をネットで確認してすべての保育園のホームページを見たうえで、自分に合うかどうか検討し、見学に行き就職しました。

Q 障がい、高齢分野に興味がありますが、自身が小柄なため、介助ができるか心配です

A (高齢) 体格に応じて職員さんは各々、介助のコツのようなものを持っているので、先輩に聞けば大丈夫です。リフトや介護ロボット、車いすになるベッドを利用している施設もあります。

(障がい) スタッフ同士で、その方に適した介助方法を共有するようにしています。フォローが必要な時にはインカムで呼び合い、お互いに支え合える体制が整っています。

Q 支援を必要としないと思われの方や攻撃的な行動をされる方と、どのような関わりを心がけているか知りたいです

A (児童) どんな反応を示したとしても、子どもたちが本心で関わらないでほしいということはないと考えています。

(救護施設) 日々のコミュニケーションのなかで、徐々に距離感をつかんでいきたいと考えていますが、人によって、距離感や接し方は変える必要があります。

(障がい) チームで働いているということを意識して、上司、同僚に相談しています。どうしたいか利用者本人に聞くこともあります。

聞けたので、いろいろと考えて仕事されていることがよく伝わってきました」（大学1年生）。「実際に働いている職員の方の話を聞く機会は貴重だと思いました」（学校教員）などの声がありました。



▲参加者からの質問に、進行役が指名しながら回答

登壇した若手施設職員



■児童福祉施設（大阪市児童福祉施設連盟）
高津学園 坂口 知輝さん
聖家族の家 菊池 虹香さん

■保育施設（大阪市保育連合会）
天使虹の園 村上 晴香さん
天使保育園 加藤 貴成さん

■保育施設（大阪市地域福祉施設協議会）
北田辺保育園 近藤 桃夏さん
北田辺保育園 西岡 実乃里さん

■高齢者施設（大阪市老人福祉施設連盟）
加美北特別養護老人ホーム 齋藤 愛さん
特別養護老人ホームゆめあまみ 橋本 彩乃さん

■生活保護施設（大阪市生活保護施設連盟）
救護施設 三徳寮 山内 風知さん
救護施設 三徳寮 新川 愛実さん

■障がい者施設（大阪市障害児・者施設連絡協議会）
エフォル 宝来 歩実さん
スカイ・アンドロメダ 田中 愛さん

理事会開催 — 上半期の活動を報告 —

市社協は11月10日に、市立社会福祉センターで理事会を開催しました。

議案では、副会長の選任について審議されました。港区社会福祉協議会会長であり大阪市地域振興会会長の武智虎義理事と生野区社会福祉協議会会長の多田龍弘理事が決議により、新たに副会長に選任されました。

続いて、会長及び常務理事から令和4年6月から10月末までの職務執行状況について報告をしました。

主要事業に関しては、10月に開催した大阪市社会福祉大会や第2期大阪市地域福祉活動推進計画、介護保険要介護認定調査・障がい支援区分認定調査事業の進捗状況のほか、9月末で申請受付が終了となった新

型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付への対応などについて報告。

また、市・区社協間の情報共有や災害備蓄物資の状況をオンラインで管理・更新するシステムを導入し、引き続き災害対応力強化に向け、努めていくこと等を報告しました。

令和4年度 一水会・区社会福祉施設連絡会合同学習会

社会福祉施設の 公益的な取組みの推進！

— コロナ禍での調査結果と実践事例から —

社会福祉法に社会福祉法人の公益的な取組みが責務として明記され、各施設の強みを活かして、住民の暮らしに目を向けた取組みを推進することが、より一層重要となっています。市内の施設を対象とした公益的な取組みに関する調査の結果やコロナ禍での実践事例から、各施設が今できること、今後の展開に向けたポイントをともに考えます。

開催日時 令和5年2月2日(水) 午前10時～正午

開催形態 オンライン開催 (Zoom)

内容 調査報告

地域における公益的な取組みに関する調査結果について

講師による講演

大阪教育大学 教育学部 教育協働学科 特任教授 新崎 国広 氏

実践報告

①社会福祉法人 亀望会 特別養護老人ホーム江之子島コスモス苑
「高齢者施設でのこども食堂の立上げ・運営」

②社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会 福島育成園
「障がい者施設でのボランティアとの交流・福祉教育の推進」

申込み・問合せ先

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 (担当: 地域福祉課)
TEL 06-6765-5606 FAX 06-6765-5607
E-mail sisetsu-mail@sisetsukyo.osaka-sishakyo.jp
HP <http://www.osaka-sishakyo.jp/>



申込み期日: 1/30(月)

共催

大阪市社会事業施設協議会、大阪市社会福祉協議会



認知症高齢者に対する ケアマネジメント(居宅介護支援)

大阪公立大学大学院生活科学研究科 教授 岡田 進一

ケアマネジメント(居宅介護支援)は、地域における要介護高齢者や家族の生活ニーズを充足するため、ケアマネジャー(介護支援専門員)が、さまざまな居宅サービス(ホームヘルプサービスやデイサービスなど)を紹介し、要介護高齢者の適切なサービス利用のために行う相談支援である。

認知症高齢者が増加するなか、ケアマネジメントは、地域包括ケアシステムにおいても重視され、認知症高齢者を含む要介護高齢者に対して、在宅ケアを推進していくための有効な方法であると考えられている。

現在、在宅生活を行っている認知症高齢者は、約50%が配偶者との2人暮らしで、約30%が1人暮らし、約13%が子どもや配偶者などとの3人暮らしなどを行っている。認知症高齢者が1人暮らしや配偶者との2人暮らしを行っている場合、ホームヘルプサービスなどの居宅サービスによる支援が必要となる場合がある。

ある。しかし、認知症高齢者や家族だけで、居宅サービスなどの内容を把握し、選択することは難しい。そのような場合、認知症高齢者が継続的に在宅生活を行うためには、居宅サービスなどを適切に選択するためのケアマネジメントが必要となる。

近年の調査では、認知症高齢者に対するケアマネジメントが有効に機能するためには、ある程度の期間が必要であるという。ある程度の期間が必要な理由は、ケアマネジャーと認知症高齢者との信頼関係の構築に時間が必要となるためである。

専門職とサービス利用者との信頼関係の構築の重要性は、これまでも言われてきたが、科学的な研究においても、認知症高齢者に対する有効なケアマネジメントを行うためには、ケアマネジャーと認知症高齢者との信頼関係の構築が重要であることが明らかになった。



「大阪発！これからの地域共生社会を展望する」 地域福祉の源流に学び未来を紡ぐをテーマに 第34回 近畿地域福祉学会 大阪大会 開催

3年ぶりに 会場参集で開催

近畿地域福祉学会では、近畿6府県の持ち回りで毎年1回、年次大会を開催しています。今年度は「大阪大会」として、大阪市社協が実行委員会事務局を務め、12月17日に大阪市社会福祉研修・情報センターで開催されました。

直近2年間はオンライン開催でしたが、今回は会場参集（午後のみオンライン併用）としたところ、会場定員を超過する申込みがあり、オンラインを含め265人が参加しました。

大阪に根づく地域 福祉実践を共有

午前中は、3つの分科会での自由研究発表・実践活動報告。研究者や社協職員らから全14件のエントリがあり、都島区社協、平野区社協、大阪市社協からもそれぞれ実践活動・研究成果を発表しました。

午後の基調講演は、大阪市社協の永岡正己会長が講演し、大阪の社会福祉の歴史・源流から

現在につながるポイント、コロナ禍の地域福祉活動に向けたメッセージが伝えられました。

続くシンポジウムでは、武庫川女子大学の松端克文教授（大会実行委員長）の進行のもと、社会福祉法人四恩学園理事長の中西裕さん、元大阪市社協会長の乾繁夫さん、認定NPO法人Homedor理事長の川口加奈さんが活動を報告。それぞれの立場から、大阪の地に根ざして、先駆性・開拓性あふれる取組みを積み重ねてきたことが語られた後、コメントーターの桃山学院大学の小野達也教授（近畿地域福祉学会代表幹

事）を交えて大会テーマを議論しました。
詳細の報告記事は、次号に掲載します。



▲市社協の永岡会長による基調講演



▲左から小野教授、松端教授



▲シンポジストの中西さん、乾さん、川口さん

■大阪市内の社協職員による実践・研究発表

都島区社協 〈発表者〉川原佳代



実践活動報告

孤立発見プロジェクト始動～社協内の部門を超えて社会的孤立に立ち向かう～

平野区社協 〈発表者〉井上佳奈



実践活動報告

平野区における新たな活動の創出に向けた協議体の役割と展開～調査から協働、実践へ生活支援体制整備事業を基盤として～

大阪市社協 〈発表者〉松尾浩樹



自由研究発表

10年の活動推移からみる大阪市内地域包括支援センターの地域コミュニティにおける役割に関する考察～地域や生活に根ざすセンターの視点から～

3つの発表に関する資料は、市社協HPにも掲載しています



立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 家財の保険 火災の保険

www.ms-ins.com

各種表彰

厚生労働大臣表彰

＜社会福祉功労＞ 大垣 純一（西淀川区社会福祉協議会会長）
千田 守男（中央区民生委員児童委員協議会会長）
桑野 太一郎（東住吉区民生委員児童委員協議会会長）

市民表彰

＜区政功労＞ 小玉 始（北区社会福祉協議会会長）
川上 満（大正区社会福祉協議会会長）
平岡 敏治（港区民生委員児童委員協議会会長）
＜社会福祉功労＞ 小嶋 憲子（大阪市民生委員児童委員協議会会長）
＜産業経済・消費生活功労＞ 植田 泰央（天王寺区民生委員児童委員協議会会長）